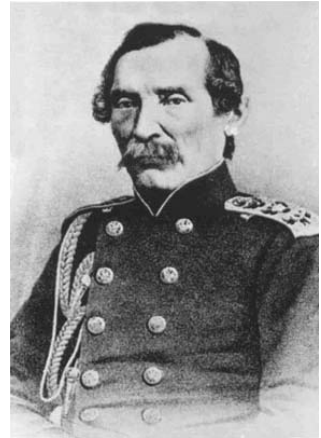


2. 日露開国交渉

1. プチャーチン使節の訪日

- 1843年7月10日 海軍少将エフフィーミー・ワシーリエヴィチ・プチャーチン Евфимий Васильевич Путятин (1803年11月20日～1883年10月28日)のシベリア委員会への意見書アヘン戦争後の1842年の南京条約締結を踏まえ、英国との競争に負けないよう全権代表を中国に軍艦で派遣し、あわせてサハリン島などの探検と日本との交渉の再開を提案。「レザーノフ使節の場合と異なり、船を直接に首都の江戸の港に入れば成功がより期待できるように思える。長崎ではオランダ商館の商人が交渉を妨害するべく万策を尽くすだろう。」ニコライ1世は提案を受け入れ、8月28日、日本皇帝宛親書に署名したが、対英政策で慎重な外相・蔵相に反対され、派遣延期となる。
- 1852年3月 艦隊を派遣し日本に開国を求める計画が米国にあることがわかる。
- 5月 ロシア、日本への使節派遣を決定し、プチャーチンを使節に選任。
- 10月19日 プチャーチン、パルラダ Паллада 号でクロンシュタット港を出港し、英国ポーツマス港に向かう。
- 11月24日 米国、ペリー艦隊、日本へ向け出発。
- 1853年1月30日 ロシア、プチャーチン艦隊、日本へ向け英国ポーツマス港を出発（英国で船を調達）。
- 3月11日 「日本との交渉についてのプチャーチン宛外務省追加訓令 730号」
- (露暦2月27日) 通商上の利益の達成こそ真に重要であるので国境問題については寛大でよい。つまりクリル諸島のうち、ロシアに属する最南端はウルップ島でよい。
- そのほか、日本の国法に従い、江戸ではなく長崎に入港せよとの指示を含む（もと長崎商館医師でドイツ人シーボルトの提案）。
- 夏 プチャーチン艦隊、喜望峯を周り、シンガポール、香港を経由、小笠原諸島父島二見港に到着し、東洋艦隊の3隻と合流して、パルラダ号を旗艦とする4隻の艦隊を編成。このとき追加訓令を受領。
- 7月8日 米国ペリー艦隊（旗艦サスケハナ号以下4隻）、江戸湾・浦賀に入港。
- 8月22日 プチャーチン長崎入港。宰相ネッセリローデの書簡の受け取りを要請。
- 9月21日 日本側、ネッセリローデ書簡を受け取る。
- 10月4日 トルコ、ロシアに宣戦布告（クリミア戦争勃発）。
- 11月1日 ロシア、トルコに宣戦布告。
- 11月8日 筒井肥前守政憲、川路左衛門尉聖謨(としあきら)(1801年6月6日～1868年4月7日)、露西亞応接掛に任命され、長崎へ出立。
- 11月18日 プチャーチン、いったん長崎を出港。
- 1854年1月3日 プチャーチン、長崎に再入港。
- 1月18日 プチャーチンと日本側全権・筒井肥前守政憲、副全権・川路左衛門尉聖謨との交渉開始。
- 2月5日 第1次交渉終了し、プチャーチン、長崎出港。
- 2月21日 クリミア戦争でロシア、英仏に宣戦布告。
- 3月28日 英仏、ロシアに宣戦布告。
- 1854年3月31日 日米和親条約締結、日本開国へ。



プチャーチン



川路聖謨

資料：「日本との交渉についてのプチャーチン宛外務省追加訓令 730 号」

Из утверждённой императором Николаем I 24 февраля 1853 г. дополнительной инструкции МИД России Е.В. Путятину о переговорах с японцами No. 730 от 27 февраля 1853 г. 皇帝ニコライ I 世により 1853 年 2 月 24 日付で承認された、1853 年 2 月 27 日付日本との交渉についての Е. В. プチャーチン宛ロシア外務省追加訓令第 730 号

Что касается до самих писем к Губернатору острова Нагасаки¹ и в Верховный Японский Совет², которые при сем к Вашему Превосходительству препровождаются в запечатанных пакетах с вложенными внутрь оных переводами на голландском языке, то по содержанию письма в Верховный Совет, яко главного, Министерство Иностранных Дел долгом считает изъяснить следующее. 長崎奉行および老中宛書簡はオランダ語訳を同封して封印した行囊にて閣下宛に送付されているが、より重要な老中宛書簡の内容につき、外務省は以下の通り説明しておくべきものと考ええる。

В сем письме, с коего у сего же прилагается точная копия как и с письма к Губернатору, кроме предложения японцам о вступлении с нами в торговые сношения, - о дозволении нашим купеческим судам (а также, по надобности, и военным) приставать в те порты Японии, которые будут для сего назначены, мы предъявляем также требование об установлении границ между Российскими и Японскими владениями. この書簡は、長崎奉行宛ての書簡と同様、その写しを別添してあるが、そこにおいては、我々との通商関係開設に関する日本側への提案、および追って指定する我々の商船（必要があれば軍艦も）に対する日本の港への寄港許可に関する提案の他、露日領土間の国境画定についての要求も提起している。Мысль теперь же приступить к пограничному вопросу показалась нам весьма основательною: через это можно, так сказать, заставить Японцев по необходимости войти с нами в переговоры. 国境問題に直ちに取り掛かるとの考えは、根拠のあるものと思われるが、このことを通じ、いわば日本人が我々と交渉に入ることを余儀なくされるからである。От прочего они могли бы, следуя своим обычным правилам, тотчас же уклониться и дать ответ отрицательный, но предъявление нашего желания о разъяснении границ есть такого рода требование, от коего им трудно отказаться. 他の場合であれば、彼らは自らの慣習により直ちにこれを回避し、否定的な回答を出すであろうが、国境を明確にしたいとの我々の要望は、彼らにとり拒絶し難いものである。Самим этим вопросом мы можем побудить Японское Правительство к большей уступчивости. 正にこの問題を用いることで、我々は幕府から大きな譲歩を引き出すことが出来る。

По сему предмету о границах наше желание быть по возможности снисходительными (не проронивая однако же наших интересов), имея в виду, что достижение другой цели, - выгод торговых, - для нас имеет существенную важность. この国境問題に関する我々の要望は、通商上の利益というもう一つの目的の達成が我々にとって本質的な重要性を持っているということとを考慮すれば、（我々の利益を損なわない範囲で）可能な限り寛大なものであるべきである。Из островов Курильских южнейший, России принадлежащий, есть остров Уруп, которым мы и могли бы ограничиться, назначив его последним пунктом Российских владений, к югу, - так, чтобы с нашей стороны южная оконечность сего острова была (как и ныне она в сущности есть) границей с Японией, а чтобы с Японской стороны границей считалась северная оконечность острова Итурупа. クリル諸島のうち、ロシアに属する最南端はウルップ島であり、同島がロシア領の南方における終点と述べることで満足してよく、これにより（今日既に実際そうであるように）我が方は同島の南端が日本との国境となり、日本側は択捉島の北端が国境となる。Если бы, паче чаяния, Японское Правительство стало предъявлять свои права на сей остров, то Вы можете объяснить им, что о. Уруп на всех наших картах показывается принадлежащим России и что лучшим доказательством сей принадлежности есть то, что Российско-Американская Компания, имеющая в своём управлении Российская владения в Америке и в разных там морях, не только распоряжается Урупом наравне с прочими Курильскими нашими островами, но даже имеет там поселение, и вообще сей остров считается границей наших владений в Курильских островах. 幕府が予想に反してウルップ島に対し自らの権利を主張する場合には、先方に対し、この島が我々のすべての地図中でロシア領と記載されていること、また、アメリカおよびその種々の水域におけるロシア領を管轄する露米会社が、他の我々のクリル諸島と同様ウルップ島を支配下に置き、更には住民すら有していることは、その帰属についての最良の証拠をなすものであり、一般にこの島はクリル諸島における我々の領土の境とみなされている旨を説明し得よう。

АВПРИ³, ГА⁴, 1-9, оп. 8, д. № 17, ч. 1, ЛЛ. 214-216 об. 218-218 об.

¹ 直訳は「長崎島知事」であるが、事実在即して「長崎奉行」と訳す。

² 直訳は「日本最高会議」であるが、事実在即して「老中」と訳す。

³ Архив внешней политики Российской Империи (ロシア帝国外交文書) の略語。

⁴ Государственный архив (国立公文書館) の略語

- 10月21日 プチャーチン、ディアナ *Диана* 号で、箱館入港。
 11月8日 プチャーチン、大坂湾に入る。幕府、下田回航を要請下田入港。
 12月4日 プチャーチン、下田入港。
 12月22日 日露、第2次交渉開始（下田玉泉寺）。
 12月23日 安政の東海大地震⁵（推定マグニチュード8.4）起こる。この地震により、13メートルの津波が下田港を襲い、ディアナ号損壊。下田はほぼ全滅（総戸数856戸のうち813戸流出、25戸半壊）。
 1855年1月19日 ディアナ号を西伊豆の戸田（へだ）で修理することになり、戸田沖まで曳航するも暴風雨で海が荒れて漂流、宮島村（現富士市三四軒屋）沖で沈没。宮島村村民も安政の東海大地震の被害を受けていたが、乗組員を救助。
 1月24日 幕府、戸田村（戸数約600戸、人口約3000人）でのロシア艦建造を許可。同日、ロシア使節団約500人、戸田村に到着。プチャーチン提督、幕僚、士官用宿舎は宝泉寺、下士官用宿舎は本善寺と決定。日本最初の西洋式帆船の建造が戸田の船大工の手により始まる。
 1月31日 交渉再開（下田）。
 2月7日 日魯通好條約（日露和親条約・下田条約）調印。
 5月8日 プチャーチン、ヘダ号で出港。
 1856年12月7日 日露和親条約、批准書交換。



ディアナ号沈没地点と下田・戸田



ヘダ号の模型

2. 日露和親（通好）条約（下田条約）第2条問題

2.1. 交渉時の言語

日本側：ロシア語を解する者なし。漢文を解する者あり。オランダ語を解する者あり。

ロシア側：中国語を解する者あり（初代駐日総領事ゴシケヴィッチ）。オランダ語を解する者あり。

交渉は主としてオランダ語となる。

2.2. 条約文の検討

条約文の検討は、オランダ語正文を作成し、日本側はその日本語訳、ロシア側はロシア語訳を検討。またオランダ語正文から漢文を作成し、双方でチェック。

2.3. 第2条における脱字と誤訳

2.3.1. 漢文における脱字（カッコの部分）

「嗣後魯西亞國與日本國之境、応在厄土呂布、蔚布両島間、其厄土呂布全島属日本、蔚布全島及其（他）北方久利留諸島属魯西亞、至哈喇土嶋則日本與魯西亞不分疆域須如往規」

「今より後日本国と魯西亞国との境、エトロブ島とウルップ島との間にあるへし、エトロブ全島は日本に属し、ウルップ全島及び其の（他の）北方のクリル諸島は魯西亞に属す、カラフト島に至りては日本国と魯西亞国との間において界を分たす之迄仕来之通たるへし」

⁵ この地震の起こった日は旧暦では嘉永7年11月4日であり、安政元年は旧暦11月27日から始まるが、一般にこの地震を「安政の東海大地震」と呼んでいる（なお、翌1855年11月11日・旧暦10月2日の「安政の大地震」とは別だが、混同している文書が多い）。

2.3.2. 誤訳

下線部を「ウルップ全島より北の方クリル諸島は」と誤訳

2.4. サンフランシスコ平和条約締結以後の「クリル諸島」の範囲についての論争の原因

誤訳された日本語訳をもとに、「下田条約締結当時、日露双方とも、ウルップ島を含めてその北方の島々をクリル諸島と理解していた」とする主張が出てきた。

この主張は、「サンフランシスコ平和条約で放棄したのは、下田条約でいうクリル諸島、すなわちウルップ島以北であり、エトロフ島、クナシリ島は放棄していない」というものである。

しかし、オランダ語正文、ロシア語、脱字を補った漢文を見ると、ウルップ島以北はクリル諸島の一部と解されるので、クナシリ島、エトロフ島もクリル諸島ということになる。

資料・日露和親条約

日本國魯西亞國通好條約

第二條

【オランダ語正文⁶⁾】

Van nu af zal de grens tusschen de eilanden Itoroep (Iedorop) en Oeroep zyn. Het geheel eiland Itoeroef behoort aan Japan en het geheel eiland Oerop, met de overige Koerilsche eilanden, ten noorden, behoren tot Russische bezittingen. Wat het eiland Krafto (Saghalien) aangaat, zoo blyft het ongedeeld tusschen Rusland en Japan, zoo als het tot nu toe geweest.

これから後、境界はイトルブ（イェドロブ）島とウロブ島の間に在るべし。イトルブ全島は日本に属しそしてウロブ全島は残りの、北のほうの、クリル諸島とともに、ロシアの所有に属する。カラフト（サハリン）島について言えば、従来どおりロシアと日本との間に不分割のままにとどまる。

【ロシア語訳⁷⁾】

Отныне границы между Россией и Японией будут проходить между островами Итурупом и Урупом. Весь остров Итуруп принадлежит Японии, а весь остров Уруп и прочие Курильские острова к северу составляют владение России. Что касается острова Карафута [Сахалина], то он остаётся неразделённым между Россией и Японией, как было до сего времени.

これから後、日本とロシアとのあいだの境界はイトルブ島とウルップ島とのあいだを通ることとなる。イトルブ全島は日本に属し、ウルップ全島および北方のその他のクリル諸島は、ロシアの領土となる。カラフト（サハリン）島については、従来どおりロシアと日本とのあいだで不分割のままとする。

【日本語訳⁸⁾】

今より後日本國と魯西亞國との境「エトロフ」島と「ウルップ」島との間に在るへし「エトロフ」全島は日本に属し「ウルップ」全島より北の方「クリル」諸島は魯西亞に属す「カラフト」島に至りては日本國と魯西亞國との間に於て界を分たす是まで仕來の通たるへし

資料・サンフランシスコ平和条約（1951年9月8日）⁹⁾

Article 2

(c) Japan renounces all right, title and claim to the Kurile Islands, and to that portion of Sakhalin and the islands adjacent to it over which Japan acquired sovereignty as a consequence of the Treaty of Portsmouth of September, 5, 1905.

第二条

(c) 日本国は、千島列島並びに日本国が千九百五年九月五日のポーツマス条約の結果として主権を獲得した樺太の一部及びこれに近接する諸島に対するすべての権利、権原及び請求権を放棄する。

⁶⁾ 村山七郎『クリル諸島の文献学的研究』三一書房、1987年、180頁。

⁷⁾ 在ロシア日本国大使館ホームページ (<http://www.ru.emb-japan.go.jp/RELATIONSHIP/MAINDOCS/1855.html#7> [2011年4月25日アクセス])。

⁸⁾ 外務省記録局『締盟各国条約彙纂』[第1編] 外務省記録局、明17年、585-589頁。また内閣府北方対策本部ホームページ (<http://www8.cao.go.jp/hoppo/shiryu/pdf/gaikou01.pdf> [2011年4月25日アクセス])。

⁹⁾ 英語は日本国外務省ホームページ (<http://www.mofa.go.jp/region/europe/russia/territory/edition92/period4.html> [2011年4月25日アクセス])、日本語は内閣府北方対策本部ホームページ (<http://www8.cao.go.jp/hoppo/shiryu/pdf/gaikou10.pdf> [2011年4月25日アクセス])。